行政視察報告書　　野々山　雄一郎

日程	平成29年2月10日（金）
視察先・視察内容	①岐阜県岐阜市　　長良川競技場の施設に関して ②愛知県刈谷市　　ウェーブスタジアム刈谷の施設に関して

①岐阜県岐阜市　長良川競技場の施設に関して

概要　岐阜メモリアルセンター内に位置する。メモリアルセンターにはアリーナ2室、ダンス室、トレーニング室、柔道場、剣道場、弓道場、相撲場、野球場、テニスコート競技用公式プール、補助競技場（第3種）、球技場（メドウ）、長良川競技場からなる。

長良川競技場（第1種）

補助競技場（第3種）

サッカーJ2のFC岐阜のホームグランドとして使用（J1規定にも適合）
隣接の補助グランド(第3種）は、陸上競技大会のアップ用のサブグランド、単独での陸上競技場としても使用。

視察内容　①競技力向上を目的に補助競技場を小・中・高・一般に練習会場として開放している。
②インフィールドに関して長良川競技場は通年芝、補助競技場は夏芝を採用。
③駐車場は敷地外も含め1200台を準備。
同日に様々な大会が開催される際は駐車場は満車になる。またFC岐阜、プロ野球開催時は、岐阜駅や長良川河畔からバスでのピストン輸送を実施している。
④開催された主なイベントでの来場者数

全国規模の大会	3000人
県規模の大会	2000人
地方規模の大会	2000人
FC岐阜の試合	3000人～12000人
プロ野球の試合	20000人

⑤ラグビーの試合はメモリアルセンター敷地外の長良川球技場メドウを使用
⑥競技場にホテルが隣接され、遠征の選手等の環境に優れている。

問題点　・芝生の水はけが悪い。
・ハンマー投げによる芝生の荒れ。大きな大会だと300投の跡が残り、芝を抜いて植え替える作業の手間に時間と経費がかかる。（他競技場ではハンマー投げ禁止の競技場もあり）
・同じ日に二つの競技がある場合の運営
・陸上競技測定器具の経年劣化による不具合
・人口芝競技場がないため、すべての競技場と広場が天然芝のため利用規制が多い
・タータンの色(茶）の変色が早い

市民の声　・良い施設であると県民・市民の評価は高く、これといった不満は上がっていない。
・高橋尚子ハーフマラソンのような30000人が競技者として参加する全国規模の運営も可能。

②愛知県刈谷市　　ウェーブスタジアム刈谷の施設に関して

概要　刈谷市総合運動場内に位置する。他にウィングアリーナ（2つのアリーナ・プール・卓球場スタジオ・トレーニングルーム・ランニングコース・会議室）、グリーングランド（サブグランドサッカー専用として天然芝1面、人口芝1面）、芝生広場(健康遊具・子供遊具）がある。

第3種公認陸上競技場であり、サッカーJ3の規定にも適合。

視察内容 ①平日、陸上教室を開催。また大人のランニング教室・ウオーキング教室も開催
②ウェーブスタジアムは通年芝、グリーングランドは夏芝を採用
③駐車場は敷地外も含め550台。全国規模の大会では駐車場利用率100%。特別なイベントがない状況でも土日祝日の70%は大混雑。
④開催された主なイベントでの来場者数
ラグビートップリーグ戦・・・・・・・3899人
スペシャルオリンピクス日本(東海・北信越ブロック大会）・・・2000人
高校サッカー選手権愛知大会・・・600人
愛知マスターズ陸上選手権・・・450人
西三河高校総体陸上・・・800人
選抜高校サッカー刈谷大会・・・800人
⑤アリーナでBリーグ、Vプレミアムリーグ、ハンドボールリーグ、フットサル国際親善試合などの開催時にはグランド利用調整によって対応
⑥電光掲示板を採用。聴覚障害者の大会で重宝。
⑦来年度より体育施設に加え施設のある総合運動場、隣接する逢妻緑地、桜堤を指定管理者による一元管理を行う。これにより健康増進やスポーツプログラム等、民間のノウハウを使った多彩な事業が展開される可能性が高まる。
⑧他市の陸上競技大会の依頼もある

所感　両競技場ともに大きな大会の際の駐車場問題を抱えている。駅からのピストン輸送や敷地外駐車場から誘導で対応している。本市の計画も駐車場に関して敷地内にて臨時駐車場で対応予定しているが、蹴球場に関しては、人口芝グランドが望まれる。天然芝は利用制限があり、刈谷が驚異的な稼働率をほこるのは人口芝グランドの存在が大きい。天然芝競技場の散水・排水は施工の際に対処していると認識しているので、問題ないかと思われる。
陸上競技の測定器具の倉庫の確保とともに会議室を始め多目的にも使える部屋の確保も必要と感じた。（パーテーションなどで部屋数・広さを調整）
地域のスポーツ団体・クラブチームとの協働も必要と感じた。
本市名が入ったチーム名を持つスポーツ団体とともに、「スポーツでまちおこし」ができるような競技場を作る。現在JFLで活躍しているマルヤス岡崎がいずれJリーグに上がる事を希望し、また陸上クラブ出身者が全国で活躍する事を夢に描く。そんな思いで今回は、二つの近隣競技場を視察いたしました。
（仮）龍北総合運動場パブリックコメントにも一市民として参加しました。市民に愛される競技場を作り、スポーツのまち「岡崎」を目指し、新たな観光資源として、しっかりコンセプトを強く持つ必要を感じました。